

病院勤務医の負担軽減の実態調査

平成20年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査
(平成20年度調査)の実施案について

[目次]

○ 病院勤務医の負担軽減の実態調査 1頁

○ 外来管理加算の意義付けの見直しの影響調査 2頁

○ 後発医薬品の使用状況調査 3頁

○ 後期高齢者にふさわしい医療の実施状況調査1 5頁

○ 後期高齢者にふさわしい医療の実施状況調査2 6頁

■ 調査目的

- ・ 病院勤務医の負担軽減策の取組み状況等の把握
- ・ 病院勤務医の負担軽減と処遇改善等の把握

<調査のねらい>

- 病院勤務医の負担軽減策の取組み状況等の把握
 - ・ 患者数及び病院勤務医数に変化があるか。
 - ・ どのような病院勤務医の負担軽減策が実施されているか。
- 病院勤務医の負担軽減と処遇改善等の把握
 - ・ 当直、連続当直回数は変化したか。
 - ・ 病院勤務医の業務負担は軽減したか。

■ 調査対象及び調査方法

- ・ 「入院時医学管理加算」、「医師事務作業補助体制加算」、「ハイリスク分娩管理加算」のいずれかの届出を行っている医療機関を対象に医療機関調査、医師責任者調査及び医師調査を行う。
- ・ 自記式調査票の郵送配布・回収とする。

■ 調査項目 (中医協 検-2 参照)

■ 調査スケジュール

	平成20年				平成21年		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査票の設計 ・ 調査票の検討、調査客体の選定等	→						
調査実施			→				
集計・分析				→			
報告書作成					→		
調査検討委員会		○					○

外来管理加算の意義付けの見直しの影響調査

■ 調査目的

- ・ 外来管理加算の意義付けの見直しによる医療機関への影響の把握
- ・ 外来管理加算の意義付けの見直しによる患者への影響の把握

<調査のねらい>

- 外来管理加算の意義付けの見直しによる医療機関への影響の把握
 - ・ 外来管理加算の算定状況はどうか。
 - ・ 改定前後で患者数及び診療時間は変化したか。
- 外来管理加算の意義付けの見直しによる患者への影響の把握
 - ・ 医師の説明内容に対する理解度はどうか。
 - ・ 診察に対する満足度はどうか。

■ 調査対象及び調査方法

<病院調査>

- ・ 全国の病院の中から無作為抽出した 1,500 施設を対象とする。ただし、一般病床数が 200 床未満の病院とする。

<診療所調査>

- ・ 全国の一般診療所の中から無作為抽出した 2,000 施設を対象とする。

<患者調査>

- ・ 病院調査・診療所調査の対象施設に来院した患者を対象とし、1 施設につき 4 名を本調査の対象とする。

<調査方法>

- ・ 自記式調査票の郵送配布・回収とする。

■ 調査項目（中医協 検一 2 参照）

■ 調査スケジュール

	平成 20 年				平成 21 年		
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
調査票の設計 ・ 調査票の検討、調査客体の選定等	→						
調査実施			→				
集計・分析				→			
報告書作成						→	
調査検討委員会		○				○	

後発医薬品の使用状況調査

■ 調査目的

- ・ 保険薬局や医療機関における後発医薬品の使用状況の把握
- ・ 後発医薬品の使用に関する患者の意識の把握

<調査のねらい>

- 保険薬局における「後発医薬品への変更不可」とされた処方せんの受付状況等の把握
 - ・ 「後発医薬品への変更不可」とされた処方せんはどのくらいか。
 - ・ 実際に後発医薬品に変更して調剤した処方せん枚数はどのくらいか。
 - ・ 後発医薬品に変更することで変化した薬剤料。
- 医療機関における処方せん交付状況等の把握
 - ・ 「後発医薬品への変更不可」とした処方せんはどのくらいか。
 - ・ 「後発医薬品への変更不可」とした理由。
- 後発医薬品の使用に関する患者の意識の把握
 - ・ 後発医薬品を使用した経験があるか。
 - ・ 後発医薬品使用に関する意識及び満足度はどの程度か。

■ 調査対象及び調査方法

<薬局調査>

- ・ 全国の保険薬局の中から無作為抽出した 2,000 施設を対象とする。

<病院調査>

- ・ 全国の病院の中から無作為抽出した 1,000 施設を対象とする。

<医師調査>

- ・ 「病院調査」の対象施設の外来診療を担当する医師、1 施設につき 2 名を本調査の対象とする。

<診療所調査>

- ・ 全国の一般診療所の中から無作為抽出した 2,000 施設を対象とする。

<患者調査>

- ・ 薬局調査の対象施設に来院した患者を対象とし、1 施設につき 4 名を本調査の対象とする。

<調査方法>

- ・ 自記式調査票の郵送配布・回収とする。

■ 調査項目（中医協 検-2参照）

■ 調査スケジュール

	平成 20 年				平成 21 年		
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
調査票の設計 ・ 調査票の検討、調査客体の選定等	→						
調査実施				→			
集計・分析					→		
報告書作成						→	
調査検討委員会		○					○

後期高齢者にふさわしい医療の実施状況調査 1

■ 調査目的

- ・ 「後期高齢者診療料」の算定状況及び改定後の治療内容の変化
- ・ 後期高齢者診療計画書の作成状況
- ・ 「後期高齢者診療料」の算定を受けた患者の理解度及び満足度

< 調査のねらい >

- 「後期高齢者診療料」の算定状況
 - ・ 75歳以上外来患者数及び後期高齢者診療料の算定患者数ほどの程度か。
 - ・ 後期高齢者診療料の算定患者において改定前後で通院回数等に変化があるか。
- 後期高齢者診療計画書の作成状況
 - ・ 後期高齢者診療計画書の交付回数及び作成時間はどの程度か。
 - ・ 患者への説明時間はどの程度か。
- 「後期高齢者診療料」の算定を受けた患者の理解度・満足度
 - ・ 医療機関からみた患者の理解度はどの程度か。
 - ・ 患者自身の満足度はどの程度か。

■ 調査対象及び調査方法

- ・ 全国の後期高齢者診療料の届出を行っている医療機関の中から無作為抽出した 3,500 施設を対象に医療機関調査及び医療機関を通じた患者調査を行う。
- ・ 日記式調査票の郵送配布・回収とする。

■ 調査項目（中医協 検-2参照）

■ 調査スケジュール

	平成 20 年				平成 21 年		
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
調査票の設計 ・ 調査票の検討、調査客体の選定等	→						
調査実施			→				
集計・分析				→			
報告書作成					→		
調査検討委員会		○				○	

後期高齢者にふさわしい医療の実施状況調査 2

■調査目的

- ・ 「後期高齢者終末期相談支援料」の算定状況の把握
- ・ 終末期の診療方針等についての話し合いの実施状況の把握
- ・ 終末期の話し合い及び「後期高齢者終末期相談支援料」に関する国民の意識の把握

<調査のねらい>

- 「後期高齢者終末期相談支援料」の算定状況の把握
 - ・ 後期高齢者終末期相談支援料の算定状況はどうか。
- 終末期の診療方針等についての話し合いの実施状況の把握
 - ・ 話し合いの内容はどうか。
 - ・ 話し合いの結果、患者・家族の受け止め方の様子はどうか。
- 終末期の話し合い及び「後期高齢者終末期相談支援料」に関する国民の意識の把握
 - ・ 終末期の診療方針の話し合いやその文書提供を希望するか。
 - ・ 終末期の話し合いに、診療費が支払われることをどう考えるか。

■調査対象及び調査方法

<施設及び事例調査>

- ・ 全国の医療機関（病院 1,700、一般診療所 1,700）を対象に、医療機関調査及び事例調査を行う。病院は、所在地毎の層化後、無作為抽出、一般診療所は、半数を在宅療養支援診療所の中から、残る半数は、内科系を標榜する施設から無作為抽出する。
- ・ 事例調査票は、担当の看護師（担当看護師が話し合いに同席していない場合は医師）が記入する。

<国民意識調査>

- ・ 年齢層別層化後、人口構成比により無作為抽出を行った 20 歳以上の 2,000 人を対象とする。

<調査方法>

- ・ 自記式調査票の郵送配布・回収とする。

■調査項目（中医協 検-2）

■調査スケジュール

	平成 20 年				平成 21 年		
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
調査票の検討、調査客体の選定等	→						
調査実施		→					
集計・分析				→			
報告書作成					→		
調査検討委員会		○				○	